

高齢介護部

【理念】

利用者の方一人ひとりの生きてこられた歴史を大切に『介護する人』『介護される人』ではなく同じ人間として尊重する。府中みどり園を自分が年をとった時に生活したい場所として考えられるよう日々の利用者の方の生活について考える

重点目標 評価：○達成・△一部達成・×未達成

コロナが 5 類になり、地域活動が復活した中で、改めて地域との繋がりを深めていくことが、地域密着型の施設として大切である。事業継続の観点から計画に基づいた人材育成と地域共生社会を推進する力をつけることを、令和 6 年度の事業計画にまとめて、その結果について以下、事業報告書で報告をする。

・外国人技能実習生についての理解と育成をすすめる

年間計画	取組内容	評価
特養リーダー、スタッフ全員が技能実習生について理解し、育成に力を入れる。	技能実習生チームを作り、グループ LINE を用いて対応してきたが、スタッフ全員というところでは足りていない。	△
協同組合と協力し、技能実習生とともにチーム作りを行う。	協同組合には随時相談連絡をこちらも LINE や電話で対応してきた。	○

・中期計画を進める

年間計画	取組内容	評価
特養、小規模、デイが 60%から 100%に、まだ作成していないショートステイも含め、すべての部署で作成完了し、動き始める。	計画に関して今年度は小規模が出来、グループホームと小規模のみしか出来ていない。来年度に持ち越し。	△

・人材の育成（リーダー、スタッフ、実習生）

年間計画	取組内容	評価
小規模とグループホームは昨年度始めた育成スタイルの継続。特養ショートとデイについては、リーダーと管理者を中心に育成方法について検討し、実践できるよう準備する。	特養については相談員とリーダーが話しあう会議をもったものの、まだ具体的な成果はない。デイショートも含め来年度へ持ち越し	△
園全体のチューターが今年度は研修報告会や勉強会を開催し、チューター自身の質の向上を図る年とする。	チューター会議の中で今年度は都度勉強会を開催してきた。ただ、園内勉強会への参加はあまりなかった。	△

どこの部署も体制を強化する。リーダー同士が連携し、今年度、安定した運営を目指す。	GH リーダーが全体を気にかけて他の部署の新人を気にかけていたが、他の部署のリーダーの具体的な動きはなかった。	△
--	---	---

・災害や感染に強い施設づくり

年間計画	取組内容	評価
BCP について、出来上がったものを 6 部門がそれぞれブラッシュアップする。	6 部門がそれぞれの BCP を策定し、ユニットへの説明は行った。来年度はさらに周知を進める。	○
BCP について、出来上がったものを各部門でユニットスタッフに伝えて、訓練する。	部署ごとの訓練はほぼ出来ていない。	×

・地域共生社会

年間計画	取組内容	評価
法人理念を基に府中みどり園は人がつながる場づくりを様々な視点で取り組む。	地域とつながる場をふやしてきた。(すみっこテラス・中学校 Vr・ブランケットなど)	○
今年度は地域共生社会を意識し、昨年以上に地域とのつながりを意識し、感染や災害があっても様々な人が様々な形で参加できる活動を増やす。	町内会の総会を園内で企画し、防災委員会がその流れでコロナ明け初めて町内避難訓練を実施した。来年度は委員会が中心にこれらを行ってほしい。	△
老施協の発表で、地域共生社会を他の事業所とともに考えるきっかけにしていく。	老施協の発表は中国大会まで行くことが出来た。地域共生社会についてはさらに周知が必要。	△

中期的重點方針 評価：○達成・△一部達成・×未達成

年間計画	取組内容	評価
府中みどり園の未来を考えた人材育成	年度末から体制変更の準備をした。	△
建物の修繕が増えているので、計画的に予算配分し、修繕費用の捻出をする。	補助金検討やそれぞれの修理については事務局に相談しながら検討した。	△
府中町、広島県、県を超えて発信していく理念に基づいた介護内容の創出と地域づくりを行う。	GH の全国大会発表や、特養の中国大会発表などで行ってきた。施設長が介護福祉士会役員をしているので、府中みどり園の名前を広めることをしてきた。	○
『誰もが主人公となる社会をつくる』という法人理念に向けた取り組みを地域共生社会に視点をおいて実践する。	府中町と協力してチームオレンジ（ブランケット）の勉強会部門を施設長が中心に行ってきた。また府中みどり園全体が社協が	○

	企画した地域座談会に参加して、地域課題から取り組み検討を行った。	
--	----------------------------------	--

施設・設備整備状況 評価：○達成・×未達成

単位：千円

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況		評価
物品件名【購入・工事】	金額	物品件名【購入・工事】	金額	
エレベーター部品交換	2,189			
エレベーター液晶	825			

府中みどり園 特別養護老人ホーム

重点目標 評価：○達成・△一部達成・×未達成

特別養護老人ホームの重点目標はコロナが5類になり、他の部署が以前の府中みどり園のような動きを再開する中で、まだなかなか元に戻れない状況があったので、以前の特養を取り戻すべく、4つの重点目標を掲げて行ってきた。以下、それぞれについて報告する。

・『生活』を意識したユニット運営

年間計画	取組内容	評価
コロナの感染状況が数年続き、ユニット全体の意識低下もあり、『生活』についての意識が薄くなっている。どのユニットも入居者様それぞれの生活を意識して、園内だけの生活でなく、地域も含めた生活の意味を改めて考える年とする。	年間の行事計画報告を見ても、昨年度と変わりない状態が続いている。介護度が低下していることも理由に挙げられるが、ただそれだけでなく、スタッフに対して育成する力が低下していると思われる。	×
感染症に負けない、生活を意識したユニット運営を意識する。	感染はほぼなかったが、コロナ前に戻っていない。	△

・リーダーの育成とリーダーのスタッフの育成力をあげてチーム力をつくる

年間計画	取組内容	評価
感染症で人員不足になってしまっても、リーダーだけに頼らず、どのスタッフも持てる力を発揮して、ユニット運営が出来るようにしていく。OJT、OFFJT、SDSなどすべて取り入れて、人材育成にどのユニットも取り組む。	園内外の研修や学ぶ機会は多くあったが、そこに対するリーダー層の意識がもう少しあれば良かった。研修だけでなく、人材育成についてユニット内で考えていかねばならない。	△
フロアで1名以上はチューターを新たに育成する。	育成出来ていない。	×

・理念の理解

年間計画	取組内容	評価
リーダーの理念勉強会を開催し、理念についてリーダーが自分の言葉で話が出来るようにしていく。	施設長の力不足で勉強会は出来ていないが、都度理念については会議の中で伝えてきた。	△
園内のことだけでなく、ご家族や実習生という外部の方、地域との付き合い方も含めた理念の理解をする	地域のことと中国地区大会を契機に伝えてきたがすべてのユニットというわけにはいかなかった。	△
自己振り返りシートをユニットごとに活用する。	チューターと話しながら活用の見直しをしている最中。	△

・特養の入退居について

年間計画	取組内容	評価
特養は介護度の高い方が多いため、昨年度は退居がとても多かった。入居相談、入居情報の整理、検討会議などの情報整理と運用をリーダー同士が連携して行う体制づくりをする。	退去に対して、検討会議の持ち方を見直し、ロングショートに協力してもらいながら運営することが出来た	○

基本的計画

・利用率【利用定員 29 名(府中町に住民票がある方に限る)】

年間計画	結果	評価
98%	97%	△

・職員数 35 名(併用ショートも含む)

施設長	1 名	副施設長	0 人	医師	1 名
生活相談員	3 名	栄養士	1 名	介護支援専門員	1 名
看護師	4 名	介護職員	24 名		

入居者それぞれの生活づくりを進めていくために、日課は基本的に作らない。主な目安としての時間帯は次の表の通りとしている。

区分	時間	日課	区分	時間	日課
区分	0：00	おむつ交換、吸引、体位交換		12：00	昼食【14：00まで】
	1：00			13：00	昼寝、リハビリ、趣味活動

午前	3:00	見守り、入居者対応	午後	14:00	トイレ、おむつ交換
	5:00			15:00	おやつ
	6:00	起床、洗面、更衣		16:00	おむつ交換、夕食準備
	7:00	朝食準備		17:00	
	8:00	朝食【10:00まで】		18:00	夕食
	10:00	お風呂【16:00まで】		19:00	歯磨き、更衣
	11:00	昼食準備		20:00	就寝準備、おむつ交換など

中期的重點課題 評価：○達成・△一部達成・×未達成

・理念に基づいた介護を伝えられる職員を増やす

年間計画	取組内容	評価
日々の介護の中でどのようにしたら理念に近づけるのかを考えられるスタッフを増やしていくため、スタッフそれぞれのケアの質の向上と、自己覚知出来る力を作る。	令和6年度は統括リーダー、フロアリーダーと相談員が定期的に会議をしていたが、具体的な成果について、特に人材育成については曖昧となっている。	△
現実的に人員配置を考え、理念に近づけるよう具体的なスタッフの動きを考える。	人事異動などでしたが、それにより大きな変化はまだ見られていない	△

・予算管理

修繕費用や新たな購入が増えているので、ユニットリーダー同士で必要なものを共有し、計画的に購入を考える。	2階と3階の共有が出来ていないことがあった。ただし、すぐに購入ではなく検討することを度々してもらってきた。	△
特養は介護度が高いため、退居される方が他の部署より多い。次の入居が決まらないと居室があいたままになるため、退居から入居までの日数の管理と、入居検討会議の在り方の見直しをしていく。	入居検討会議の在り方は見直した。ただ、まだ退居までの日数はかかっているので、さらに検討する余地がある。	○
未来の府中みどり園を見据えて、リーダーや相談員が自分事として考えられるよう、会議や日々の中で意識していくことと、身の回りの物品、ユニットの物品や環境についてリーダーとスタッフが先を見据えて考える。	都度物品の使い方などについては話し合ってきた。ただ、日々の中での意識が足りているかと言うとまだ伝えきれていない、共有出来ていないことが多い。	△

施設・設備整備状況 評価：○達成・×未達成

単位：千円

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況		評価
物品件名【購入・工事】	金額	物品件名【購入・工事】	金額	
お風呂	450	お風呂	450	○

府中みどり園 ショートステイ

重点目標 評価：○達成・△一部達成・×未達成

ショートステイは若いスタッフと新しいスタッフが他の部署より多くなっているので、令和6年度は育成の視点と去年から取り組むことになっている生活を意識した個別ケア、また他部署との連携について進めてきた。以下それぞれについて報告する。

・個別ケア

年間計画	取組内容	評価
個別ケアプロジェクトで学んだスタッフを中心にして、ショートステイ（短期の滞在）であっても、利用者様の背景を個別に理解しながら、関係づくりを行う。	個別ケアプロジェクトに参加していたスタッフも勤務の関係で参加が難しくなったこともあり、ショートステイで個別ケアは活かされなかった	×
それぞれの方の行きたい場所、会いたい人、買いたいものなどを理解し、外出や日常を一緒に楽しみながら行っていく。	産休、退職があり、人員が足りずこれらの活動が出来ていない。	×
ショートステイはコロナ禍、ロングショートの利用者様が増えたことで、『生活』を意識した関わりが必要となっているが、行われているのは従来と同じケアである。今年度は『生活』を意識した関わりをスタッフ全員が考えていく。リーダーにユニットリーダー研修で学んでもらい、それを軸として行っていく。	GHに入居する方に対して、GHからのアプローチでショートにいる間に個展を開催した。ただ、ショート独自でそれらの活動をすることは難しかった。4月以降は人員が増えるためこれらの活動も人の生きてきた背景を理解しながら行ってほしい。	△
認知症の症状の方が多く、行き来が多いショートは認知症の理解をスタッフが出来ることが個別ケアにつながる。認知症ケアの勉強会を現場に活かす。	認知症ケア勉強会に参加があまり出来ていなかった。	△

・人材育成

年間計画	取組内容	評価

リーダーや相談員だけでなく、スタッフ自らが「今日はこんなことをする」という目的意識をもって介護をするユニットにする。	送迎や入浴など、決められたことをすることが精いっぱいだった。	×
委員会や研修の取り組みを担当者がユニットに伝えて、スタッフ全体が理念を意識した取り組みができるようになる。	委員会や研修に参加出来ない体制だった。	×
チューターの育成ができるように、リーダーと相談員が検討していく。	令和6年度末、チューター候補の育成が開始された。	○

・他部署との連携

年間計画	取組内容	評価
ショートからグループホームへ、ショートから特養へ行く利用者様情報の共有と、入居を視野に入れた情報収集と生活づくりをして、他部署と連携していく。	他部署との連携は意識して、GH,特養へ申し込んでいる方の受け入れしてきた。ただし、情報収集はやはりまだ足りていなかった。	△

基本的計画

・利用率【利用定員 10名】

年間計画	結果	評価
100%	104%	○

・職員数「特別養護老人ホーム府中みどり園」の職員定数に含む。

・日課は、特別養護老人ホーム府中みどり園」に同じ。

中期的重點課題 評価：○達成・△一部達成・×未達成

・府中みどり園のショートステイの特徴を理解する

年間計画	取組内容	評価
送迎、レク、お風呂、食事、送迎だけで終わらないように、利用者の個別性を意識したショートステイを目指す。そのためには、「ショートだから、利用者様の背景について理解しなくても良い」ではなく、ショートだからこそ、ご自宅、ご家族との関わりの中で、その方の背景を意識した関わりが重視できるようなショートを目指す。	ショートステイは送迎もあり、1日2名で担当する日が多かった今年度は計画のような対応が難しかった。少しずつでも良いので、計画を意識した取り組み、関わりを具体的に行っていく必要があった。	×

・コロナ禍でショートステイの利用が減らないよう、また利用したいショートを目指す

年間計画	取組内容	評価
コロナ禍であっても、受け入れ時の工夫や感染対策を行い、相談員とスタッフがともに連携をとり、情報を共有し、利用者様が「また来たい」と思えるようなショートステイを目指す。	ショートは令和6年度、特養やGHに協力して受け入れを多くしながら運営できた。ただ、特徴として大きな何かがあるということはなかった。	△

施設・設備整備状況 評価：○達成・×未達成

単位：円

施設・設備整備計画	施設・設備整備状況	評価		
物品件名【購入・工事】	金額	物品件名【購入・工事】	金額	評価

府中みどり園 デイサービス

重点目標 評価：○達成・△一部達成・×未達成

デイサービスは令和5年度後半から行っているメニューを見直し、利用者を増やし、コロナ禍で低迷していた時期を脱しつつある。理念に基づいた『利用したいデイサービス』のために、利用者満足度を上げて、スタッフの育成に取り組むデイサービスしていくことを目的としてきた。またコロナ禍からの出控えや利用中止などもあるため、相談業務の体制強化を行うことも目標としてきた。以下、令和6年度の報告をする。

・利用者満足度を上げる

年間計画	取組内容	評価
新しいメニューの開発、今のメニューのブラッシュアップをする。	新しいメニューがなかなか開発できず、同じ内容が目立った。	×
原点に戻り、利用者の24時間を考えたデイサービスにする。在宅での生活、ご家族との連携をはかりながら、デイだけで楽しめれば良いというデイではなく、生活を考えたデイの在り方を考える。	デイに来られる背景の理解がまだまだ足りないまま、今年度が終わった。新しい利用者がとても増えたこともあり、情報収集が出来きれていないことも原因かと思う。	△
ケアマネや他のデイから情報収集を常に行い、デイ相談員会議で満足度の高いデイについて検討する。	インスタなどを見たり、居宅会議でも情報を得たりしていたが、形になって得たものは少ない。	△

・人材育成

年間計画	取組内容	評価

リーダー層の育成として、園内勉強会への参加、外部への勉強会への参加、他のデイのリーダー層との意見交換をする。	園内勉強会への参加について認知症ケアは参加されていた。他のデイについては意見交換出来ていない。	△
スタッフの育成として①コミュニケーション研修の受講と振り返り②接遇研修の受講と振り返りを全員に対して行い、サービスの質の向上を目指す。	スタッフの研修受講がほぼ行えていない状況があったので、まず来年度は接遇やコミュニケーションなどの研修へ行き、ミーティングで一人ずつ目標をつくることをしていかねばならない。	×
ショートステイと同じく、認知症の利用者の方が多いので、認知症症状の理解のための勉強会参加や会議の中でケアについて話す場をもつようになる。	認知症ケア勉強会への参加は比較的よくされていた。ただ、それを日々のケアに活かすことが難しいこともあった。	△

・相談業務体制強化

年間計画	取組内容	評価
地域へのアピール、アピールできる内容、相談員の相談援助技術、対応力を体制を見直すことで強化していく。	前半から以前のような利用人数に相談員のアピールにより戻すことはできた。相談員育成、体制づくりは来年度への課題。	△

基本的計画

・利用率【利用定員 10 名】

年間計画	結果	評価
90%	94 %	○

・職員数 12 名

管理者	1 名	看護師	1 人	相談員	3 名（兼務 1 名）
介護職員	8 名				

中期的重點課題 評価：○達成・△一部達成・×未達成

・府中みどり園のデイサービスの特徴の見直しと PR

年間計画	取組内容	評価
スタッフそれぞれが、外に対して PR していることを心に留め、一人ひとりの日々の対応、接遇、コミュニケーションを大切にする。 デイの特徴は常に新しい情報から更新して、より	ボランティアの復活が出来つつあった。そのことから、それを楽しみに利用する方も増えるかもしれないが、その体制がとれてはいなかった。日々のレクや行事が比較的	△

良いデイサービスを目指す。ボランティアの復活がまだ出来ていないので、ボランティアや地域との関わりを大切にしたデイサービスを目指す。	同じものが多く、インスタなどで見る他のデイのような目新しいものが少なかった。	
---	--	--

・感染や災害に負けないデイサービス

年間計画	取組内容	評価
リーダー、スタッフとも感染や災害について敏感に対応できるデイサービスを目指す。	感染については日々意識してきたが、災害については避難訓練も行われていない。	△

施設・設備整備状況 評価：○達成・×未達成

単位：円

施設・設備整備計画		評価		
物品件名【購入・工事】	金額	物品件名【購入・工事】	金額	評価

府中みどり園 グループホーム

重点目標 評価：○達成・△一部達成・×未達成

グループホームは地域活動を多く復活し、入居者様に楽しんでいただく取り組みを多く行ってきたが、一方で年末の感染では多くの方に広がり、対応が遅くなった。地域活動を出来るだけ沢山行いながら、感染対策にも取り組めるグループホームを目指してきた。以下、令和6年度の報告をした。

・理念に基づいた実践

年間計画	取組内容	評価
地域づくりを積極的に行う。地域にグループホームを知ってもらう活動をリーダーだけでなく、スタッフも理解し、行えることを目指す。	カフェ活動にスタッフが参加することがあった。また久藏寺の食事作りはいつもスタッフが参加していた。欲を言えばもう少し色々な活動を自ら作ってほしい。	○
それぞれの方の行きたい場所、会いたい人、買いたいものなどを理解し、外出や日常と一緒に楽しみながらしていく。	年間行事での大きな外出は増えたが、日ごろの小さな外出（馴染みの美容室やお店、知り合いに会うなど）が少なかった。	△

スタッフの誰もが毎日の目標をもち、振り返りができるることを目指す	毎日の目標を言えるスタッフと言えないスタッフがいて、これは徹底されていなかった。	×
認知症の方との関わり方をグループホームだからこそ日常生活の中での個別の役割を引き出し、生活の奥行を大切にする。	「これが好きだから」「これは出来るよね」という中では取り組んでいたが、そこらか一歩進み、自ら深く理解して関わるところまでには至らなかった。	△

・人材育成

年間計画	取組内容	評価
スタッフそれぞれに合わせた研修計画を立案する。	必要な研修などは沢山受講していたが、リーダーがそれぞれに必要な学びを理解するところまではいかなかった。	△
グループホームケア会議の中で、理念に基づいたケアや育成を行う。	ケア会議ではいつも参加スタッフが考えるような機会を作っていた。	○
実習生を育てることを通して、自分たちが育つ。	実習生への関わりが日によって、スタッフによって状況が変わり、実習生から学ぶという姿勢は少なかった。振り返りを委員会中心にスタッフと行えると良い。	△

基本的計画

・利用率【利用定員 18 名】

年間計画	結果	評価
100%	99%	△

・職員数 18 名（非常勤含む）

管理者	1名	フロアリーダー	1人（介護職員兼務）	リーダー	1名（介護職員兼務）
看護師	1名	計画作成担当者	2名（介護職員兼務）	介護職員	16名

中期的重點課題 評価：○達成・△一部達成・×未達成

・理念基づいたケア

年間計画	取組内容	評価
入居者の背景を把握したケアが行える	食事や関わりの中で、拌啓を意識したケアが出来ていた。	○

スタッフが言葉遣いや対応を丁寧に行い、入居者様の尊厳について考えられる	言葉遣いは、スタッフから見た「親しさ」の範囲に留まっていた。言葉が姿勢を表してしまった意識を持つ必要がある。	×
-------------------------------------	--	---

・地域活動

年間計画	取組内容	評価
入居者様が地域の行事、活動に参加できるように スタッフが地域行事の理解、把握する	管理者が地域行事を提案するも、参加にまでは至らなかった。リーダーやスタッフが地域の行事を把握し、入居者様に合わせた活動について考えられると良い。	×

・感染・事故について

年間計画	取組内容	評価
感染症について、スタッフ全員が理解し、初動についてマニュアル通り行える	感染症については初動について動けるよう、ユニットミーティングでも話し合い行っていた	○
事故について、スタッフ全員がひやりはっとをあげて、事故を減らす	気づくとひやりが減っていることもあったが、年間を通して意識的にあげられている。	○

施設・設備整備状況 評価：○達成・×未達成

単位：円

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況		評価
物品件名【購入・工事】	金額	物品件名【購入・工事】	金額	

府中みどり園 小規模多機能ホーム

重点目標 評価：○達成・△一部達成・×未達成

昨年度は地域とつながる活動を積極的に行い、小学校との絆は深まり、小規模連絡会としての動きもあり、地域に必要とされる場としての小規模が出来つつある。さらに活動を広げ、そこに携わるスタッフの育成にも力を入れてきた。以下、令和6年度の報告をする。

・地域に必要とされる相談場所となる

年間計画	取組内容	評価
小規模と地域とのつながりを生かして、地域の方が困った時に相談する場所としての小規模ホームつくりをしていく。	地域のよろず相談所までには至らなかったが包括、町などは取り組みを理解して下さり利用相談の回数が増えたが、小規模全体としては意識が少なかった。	△
利用されている方が利用時間の中で地域にふれる時間をさらにつくる	ボランティアさんの来園や近所の散歩やホームの買い物同行など地域に出て頂く時間を意識した。	○
地域に向けて、小規模として何か行事をつくっていく。	毎日活動している体操を地域向けにアレンジし、どの世代でも楽しんで頂けるようなメニューにし発信している。	○
災害支援で小規模が地域の力になれるように町内会や小学校と連携する	小学校の防災訓練に利用者様と参加し、情報共有すると共に町内会とも協力体制を構築中である。	△

・人材育成

年間計画	取組内容	評価
小規模独自のチューター委員会を活かし、人材育成を進める。	毎月委員会を開催し、進捗を共有し本人にとって無理のないように育成スケジュールを組み、わかりやすいように努めたが成果には至っていない。	△
理念に基づいたケアについて個別ケアプロジェクトの利用やユニット会議の中でスタッフと共有していく。	個別ケアプロジェクト参加者は毎回参加していたものの、ユニット会議の中での共有はあまりされていない。	△

基本的計画

・利用率【登録定員 29 名】

年間計画	結果	評価
90%	91%	○

・職員数 13 名 (非常勤含む)

管理者	1 名	計画作成担当者	1 名
看護師	1 名	介護職員	10 名

中期的重點課題 評価：○達成・△一部達成・×未達成

・利用者満足度を高める

年間計画	取組内容	評価
選ばれる事業所として、外部評価などを利用しながら、利用者満足度を高め利用される方を増やす	運営推進会議で頂いたご意見を職員に伝え共有している。利用者様をそれにより増やすことまでに至っていない。	△
理念を理解して、利用者の背景を考えたケアができるようになる	ユニット会議で情報共有し支援などを皆で考え出来ることから関わっているが満足には出来ていない。	△

・地域に向けた活動

年間計画	取組内容	評価
小規模から地域への広報、小規模がつくった行事に地域の方が参加するような活動づくり	体操など小規模で行っているものに地域の方に参加いただいた。	○

施設・設備整備状況 評価：○達成・×未達成

単位：円

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況		評価
物品件名【購入・工事】	金額	物品件名【購入・工事】	金額	

府中みどり園 居宅介護支援事業所

重点目標 評価：○達成・△一部達成・×未達成

昨年度管理者が変わり、居宅として改めて存在意義を考えながら園内の在宅サービス事業所と連携した会議も開催してきた。今年度も色々な部署、地域の事業所と連携をはかり、府中みどり園の居宅として地域の相談場所を目指してきた。以下、令和6年度の報告をする。

・繋がることを大切にする

年間計画	取組内容	評価
地域の事業所、関係機関と連携し、常に新しい情報収集し、発信する。	新しい情報収集は管理者中心に行えていた。	○

相談があった時に、府中みどり園居宅に相談して良かったと言われる事業所を目指す。	地域からの評判も良く、府中みどり園居宅の評判は良い	○
園内の在宅サービスについても常に関心をもち、連携していく。	園内サービスを気にかけて協力する姿勢があったが、積極的にまではいかなかつた。	△
地域に出向き、社会資源の理解を深め、他の居宅よりも社会資源を知っている事業所となる。	地域の社会資源の理解は部分的にしてはいたが、積極的参加にまでは至っていない。	△

・人材育成

年間計画	取組内容	評価
園内スタッフの育成協力 ケアマネ、介護福祉士勉強会講師など、園内スタッフの育成に協力する	園内勉強会は行った。委員会にも積極的に参加したが、委員会参加が育成につながったかは不明。	△
ケアマネの質の向上 研修や勉強など積極的に参加し、自己研鑽する。	それぞれに勉強会には参加し、自己研鑽はした。	○
府中みどり園の居宅ケアマネとして、理念を理解し、担当利用者様、事業所、園内スタッフとの関わりに活かしていく。	園内のデイ、ショート、小規模などと関わりながら、担当利用者様について考えた。	○

基本的計画

・利用率【利用定員 122名】

年間計画	結果	評価
80%	80%	○

・職員数（非常勤含む）

管理者	1名	居宅ケアマネ	3名
-----	----	--------	----

中期的重點課題 評価：○達成・△一部達成・×未達成

・選ばれる居宅の意味を考える

年間計画	取組内容	評価
選ばれる居宅とはどのような居宅なのかを全員が共有、理解し、一人ひとりの目標を立て、選ばれるための活動について考える。	一人ひとりのケアマネの持てる力の育成がさらに必要と思われる。去年よりは利用者数も増えているが具体的な選ばれる内容を考えないといけない。	△

施設・設備整備状況

評価：○達成・×未達成

単位：円

施設・設備整備計画		施設・設備整備状況		評価
物品件名【購入・工事】	金額	物品件名【購入・工事】	金額	

【府中みどり園が行っている公益的取り組みについて】

① 子どもや子育て家庭への支援

・地域の子ども食堂の支援

グループホーム、小規模の利用者がスタッフと一緒に食事作りボランティアをしている。

・あいさつ運動

地域の小学校前に特養、グループホーム、小規模利用者様とスタッフが子どもの安全を見守る活動をしている。

・中学校の図書館を開けるボランティア

グループホーム、特養の入居者様とスタッフで町内中学校の図書館を開けるボランティアをしている。

② 高齢者・障害者の見守り活動

・認知症カフェや介護予防教室の開催

地域のグループホームと一緒に認知症カフェを開催し、地域の方がいつも 10 名以上利用している。

③ 地域住民への施設開放

・府中みどり園デイサービスを地域のイベントや勉強会に開放

町内会の会議や、絵手紙教室、あおぞらカフェなど地域住民が交流する場として開放している。

・小規模多機能ホーム府中みどり園の地域交流室の開放

町内のボランティア活動の拠点、役場と合同の会議、町内の事業所の集まりなどに開放している。

④ 災害時の支援体制整備

福祉避難所として、備蓄や役場から預かっている段ボールベッドなど設置している。

⑤ 福祉教育・啓発活動

・小中学校への福祉出前授業の実施

町内の特養の相談員連絡会で小学校への介護講座、出前講座を行っている。

・ボランティア体験・実習受け入れ

町内のボランティアの受け入れをしている。また実習生については年間介護実習、社会福祉士実習、栄養士実習、中学校の職場体験、

・外部研修による勉強会

地域の方に呼び掛けて勉強会を開催している。令和 6 年度については「看取り、最期について考える」研修を開催した。

・介護技術勉強会

地域の在宅介護をしている方に対して、介護技術勉強会を開催した。

・住民向け認知症ケア勉強会

役場と連携し、認知症ケア勉強会を開催した。